

避難所運営ゲームHUG

避難所運営ゲームHUGは、避難所運営をみんなで考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。

避難者の年齢、性別、国籍などそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。

参加者はこのゲームを通して要援護者へ配慮しながら部屋割りを考え、炊き出し場や仮設トイレの設置場所を考え、マスコミの取材対応といった出来事にどのように対応するかを思いのまま意見を出し、話し合いながら避難所の運営を学ぶことができます。

HUGは「H(hinanjo避難所)」、「U(unei運営)」、「G(gameゲーム)」の頭文字をとったものです。また、「HUG」には英語で「抱きしめる」という意味があります。「避難者を優しく受け入れる」といったイメージと重ね合わせて名付けました。

全体の手順

道具の準備

HUGセット、机、マジック等必要なものを準備します。

参加者のグループ分け

参加者を1グループ当たり6～8人程度に編成します。

HUGの概要説明

HUGの進め方の説明をします。

図上訓練（イメージトレーニング）

与えられた課題への対応をグループでディスカッションします。

振り返り・質疑応答

感想や意見交換を行います。

総評・片付け

進行役が総括した後、片付けて終了します。

準備するもの

□ HUGセット

カードは1番～250番まで順番になっています。順番をくずさないようにしてください。「体育館」や「敷地図」の図面は必要に応じて貼り合わせてください。ゲームの説明や進行に必要なパワーポイントデータや図面データはCDに保存されています。

□ 机、椅子、掲示板

用紙を広げる机を準備します。体育館や和室に座って行う場合は、用紙を囲んで座ります。掲示板の代わりになるもの(黒板やホワイトボード)を用意します。

□ マジック、白紙、セロハンテープ、新聞紙、付箋

図面には直接マジックで書き込みます。裏写りしないよう新聞紙を敷いておきましょう。必要なことは白紙に書いて掲示板に貼りだします。また、白紙は意見交換時もメモ用紙としても使用できます。

□ パソコン、プロジェクター、マイク

HUGセットに付属しているCDを使用してゲームの説明をする場合には、パソコンやプロジェクターが必要になります。また、広い会場で行う場合はマイクを使うと良いでしょう。



概要説明

- ① 参加者は、あらかじめグループに分かれます。
- ② 進行役は、HUGの概要や進め方、ゲームの条件、タイムスケジュールを説明します。
- ③ グループ内でアイスブレイキング（簡単な自己紹介）をします。時間は5分程度で。

やってみよう!

図上訓練(イメージトレーニング)スタート

- ① 図面を机の上に広げ、読み手はカードを読み上げる準備をします。
- ② 読み手はカードの1番から15番を読み上げ、机の上に出します。グループで作戦会議をして、どのように配置するのかを考えます。
必要に応じて通路や地区名等を図面に書き込んでください。また、「誰ともなく受付を作ろうと言った。」といったイベントカードがあります。この場合は、受付の場所を決め、図面の上に「受付」と書き込んでください。必要があれば掲示板を利用しましょう。
- ③ 読み手はカードを順番に次々と読み上げ、プレーヤーに順番に手渡します。
カードは1世帯(1グループ)分をまとめて読み上げます。

読み手のPOINT

- グループ内のプレーヤーにどんな事情を抱えた避難者が来たのかを知らせるために、大きな声で読み上げます。
- 必ずカードを読み上げてから渡してください。
プレーヤーが前のカードの内容を聞きながら、渡されたカードの内容を判断するためです。
- 前に読んだカードをプレーヤーが置き終わる前に次のカードを読み上げてください。災害時に避難者は待ってられません。
- 避難者に見立てたカードの取り扱いに注意しましょう。



プレイヤーのPOINT

- 迷って時間をかけすぎるのは禁物です。避難者は待ってくれません。思い切って判断しましょう。あとから場所を移動してもらうことができるかも。
- 掲示板を活用しましょう。避難者に何かを知らせる際には有効な手段です。



- ④ カードを全て配置したらゲーム終了です。時間がなくなってきたら読み手を2人に見せましょう。途中で終了してしまっても構いません。その場合は、残りのカードを確認してみましょう。

振り返り・質疑応答

- ① 他のグループの様子を見てみましょう。避難者をどのように配置したのか、掲示板をどのように利用しているのか。自分達のグループと比べてみましょう。

- ② グループごとに、HUGの感想や振り返りの意見交換を行います。まずは個人で考えて、グループ内で発表しましょう。他のグループに聞いてみたいことがあれば、まとめておきます。



③ 他のグループに質問してみましょう。

質問のPOINT

- ・ただ聞くのではなく、自分たちのグループの意見と比べてみましょう。

-質問の例-

「私たちのグループでは、〇〇は△△だから、××しました。他のグループではどうしましたか？」

→「私たちのグループでは、盲導犬は人と同じように扱うべきだと思ったので、家族と一緒に1年2組の教室に入ってもらいました。他のグループではどうしましたか？」

総評・片付け

① 最後に進行役から、避難所運営の要点や留意点、図上訓練のなかで改めて分かったことなどを総括、総評してゲーム終了です。

② 各グループで片付けをして解散します。HUGカードは必ず番号順に並べてください。

POINT

- ・このゲームに正解はありません。いろいろなことに気付いてもらうことが大切です。
- ・この体験が、実際の避難所運営に活かせるよう、もう一度振り返ってみましょう。
- ・新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営の方法についても考えてみましょう。

問い合わせ先

HUGの貸出・体験会について

静岡県地震防災センター

住所：静岡市葵区駒形通5-9-1

電話：054-251-7100（月曜休館）

HUGの購入について

NPO法人静岡県作業所連合会・わ

住所：静岡市葵区駿府町1-27 勝山ビル

電話：054-275-0070

HUGの制作・内容改編について

静岡県危機管理部危機情報課

住所：静岡市葵区追手町9-6

電話：054-221-3694

HUGの著作権・商標権は静岡県が有しています

